

平成24年度総会・懇親会の出席者(敬称略)

【19期】小林肇(能代中)・大塚哲郎(仙台育英) 【23期】矢口裕(二中) 【24期】丸山範子*(一中)・山縣輝輔(二中)・柴田郁(二中)・小山黎子(二中)・藤岡寛子*(一中) 【25期】那須秋男(一中)・畠豊彦(一中) 【26期】伊藤倫子*(二中)・佐々木高博(二中)・畠山信孝(鶴川中)・八柳昭義(二中)・板倉富弥(下岩川中) 【27期】後藤信義(八森中)・大村真陸郎(浜口中) 【29期】宮腰興紀(一中)・宮腰瑞夫(一中)・笹木広澄(藤里中)・清水武久(田代中)・赤塚鉄男(東雲中)・太田勝治(鹿渡中)・ 【30期】熊谷幸夫(一中)・渡辺傑(一中)・藤田道義(二中) 【31期】馬場富男(二中) 【32期】芦崎昭紀(東能代中)・松橋厚(東能代中) 【33期】小林勝平(一中、能代から参加) 【34期】西川廣正(東雲中)・長岡忠光(檜山中) 【35期】横田真理子(一中、旧姓腰山)・干場革治(八森中)・金谷満郎(浅内中)・高松睦夫(金岡中)・佐藤俊民*(常盤中)・石山眞(二中)・川添能夫(一中)・中田潤*(一中)・田村博(一中)・平川徳道(一中)・柳谷淳*(一中) 【36期】大山金士郎(鶴川中)・嶋田星子*(二ツ井中) 【37期】今野廣隆(浅内中) 【38期】佐藤能雅(東雲中)・新堀勝男(東雲中)・大塚健三(浅内中、愛知から参加)・豊嶋誠(檜山中)・鈴木貞幸(二中) 【39期】下坂節男(藤里中)・金野峻明(一中)・山本達行(富根中)・諸沢隆一*(一中)・菅原渉(下岩川)・泉龍英(一中)・浅野秀剛*(一中)・大塚進(二中)・直嶋博明(東雲中)・田村敏雄(一中)・持田訓(一中) 【40期】高橋博美*(森岳中)・森田新一郎*(沢目中)・智田農(富根中) 【41期】金子裕二(八竜中)・原田税(浅内中)・佐々木正一(二中)・小河範也(二中)・大久保英生(二中) 【43期】菊池忠夫(藤里中)・高橋敦子(東能代中、旧姓渡辺)・渡辺博栄(琴丘中)・福岡武(二ツ井中)・北林博敏(下岩川中) 【44期】庄内俊憲(八森中) 【45期】鎌田泰宏(二中)・袴田邦夫(二中)・高松武史(金岡中)・三浦洋(森岳中)・小杉山乙矢(一中)・真崎裕(二中)・大塚雄蔵(二中)・平野信任(一中) 【46期】吉田真由美(一中、旧姓工藤)・秋林泰樹(二ツ井中)・斉藤靖雄(沢目中)・石井喬(二中)・大塚晃(一中)・平川尚(一中)・齋藤昭義*(藤里中) 【47期】越中谷真喜*(一中)・大久保昭佳(一中)・野村一哉(二中) 【49期】近藤敏仁(山本中)・松永京子(二中、旧姓三輪)・田村盛仁(二中)・薄井司*(鶴形中)・片谷浩之(二中) 【50期】石井鉄美(一中) 【51期】袴田亘(二中)・山谷愼一(二ツ井中)・池内史彦(山本中) 【53期】梶原禎子(八竜中)・佐々木幹*(一中) 【54期】佐藤篤規(二中) 【55期】浅野敦志*(東能代中)・淡路和子(一中) 【56期】吉田由美子*(鷹巣中)・高島雪絵*(合川中) 【66期】高橋弘志*(二ツ井中) 【67期】小林祐子(峰浜中)・滝田祐作(一中) 【69期】近藤健一*(山本中)・赤川豊幸*(山本中) 【73期】柿崎誠(二中)・大山聡*(東雲中) 【78期】今西拓磨(八竜中)・牧野友花(八竜中) 【81期】塚本希美(一中) 【82期】今西望*(八竜中)

- 同窓生出席者数 120名
- 東京同窓会以外の同窓生 12名
- *印は初参加者(23名)
- 出身中学校名は卒業当時の校名

平成24年度総会 都合が悪く欠席しますと回答いただいた方(敬称略)

【8期】星信勝 【15期】吉田信一 【19期】千葉孝夫、鈴木良夫 【20期】小野喬、金谷芳郎、日沼聡、塩谷隆二、吉田裕 【21期】五十嵐資和、信太吉右工門、八杉和男 【23期】設楽義雄、芳賀徹 【24期】金子勝信、中島正美、豊田誠、今村宏司、蓮沼旬、木村喜作 【25期】民谷恒二、佐々木胤麿、工藤尊久、町田次男、栗原俊一 【26期】北村祐三、佐々木章、宮腰英彌、佐藤三郎、池内廣之、仙台嘉仁治 【27期】若松正雄、逸見政一、山田邦夫、齊藤秀夫、高砂浩、石嶋喜直、松森寛、川井芳敬、栗原優子、田中郁三 【28期】新川高信、大高勲、須田正巳、堀内盛、越後政明、梅田俊夫、石川輔宏、浅野勉 【29期】石川正順、関根市男、塚本祝永、下間弘道、長谷川哲治、蓼沼正紀、佐藤芙美江、中田龍一、鈴木元紀、嶋田雄右、糟谷愛、越前谷孝臣 【30期】加賀勝己、斉藤雄輝、石田邦明、岩村光二、小形昇三、石井拓夫、藤田繁、荒谷誠、丸山昌之、相澤節夫、宮腰七郎、山本正樹 【31期】松森隆、北村幸雄、熊谷博雄、平川和夫 【32期】野呂田正一、吉岡良隆、菊池豊、奈良勝夫、森田弘、袴田宏義、笠原強、米川米次、大沢忠夫、高谷誠、小高功、森喬夫 【33期】清水靖子、清野勝子、石原恵美子、金田英成 【34期】大槻綱司、畠山昇、庄内正 【35期】梶修、金子永喜、清水正之、加賀亮司 【36期】深井学、畑山進、八柳章、武田忠克、細田静夫 【37期】加賀英夫、若狭秀巳、坂田静子、小野津世子 【38期】佐藤満朗、佐藤則男、佐藤春香、桜庭正義、柴田真理子、工藤巧、川村孝、酒田正克、畑沢鉄三、八柳章二、岩谷憲一、福田満男、棚橋牧人、田村修平、伊藤陽一、袴田忠夫、金野正道、能登洋一 【39期】住吉修平、藤原正幸、畠山輝一、保坂香、茂呂忠良、熊谷一美 【40期】石井さつ子、小川孔輔、渡辺孝男、成田三千雄、小林哲、仲丸文隆、熊澤朝子、北川雅夫 【41期】高畑仁、佐々木泰夫、芳賀幸男、成田忠幸、水木秀範 【42期】佐藤行信、工藤俊一 【43期】幸坂和彦、近藤信雄、石塚信一、藤原清美、須藤正喜 【44期】佐藤穰、納谷信文、佐藤典、宮腰正己、森岡雅信、渡辺隆幸 【45期】河田昌俊、港基樹、佐藤晃 【46期】佐藤浩、佐々木恵 【47期】和平忠幸、畑中幸尚、柴田明尚、佐野輝彦 【48期】北林蒔子、越後康一、野村松信、野島美季子 【49期】田村弘文、今野泰則、大塚聡子 【51期】梅田知宏、河田康史、平塚征悦、平塚佐智子 【53期】吉田順 【54期】斉藤伸一、三浦佳奈子、遠藤いぶき 【55期】広川千春、大山顕 【57期】北野美穂子 【58期】田中聡、田中ゆき 【59期】田口豊隆、渡辺浩誠、中山美和子、日吉由紀子 【60期】山口美幸 【62期】滝こずえ、大高忠勉 【64期】滝百恵、奈良直光 【67期】倉本真智子、小野立 【80期】大坂美穂

- 欠席でもお返事を頂けると大変ありがたいです。今年是非ご参加ください！

平成24年度 総会・懇親会のご報告

2012年の総会・懇親会は10月13日(土)、アルカディア市ヶ谷・阿蘇の間にて盛大に開催されました。大和文華館館長／国際浮世絵学会常任理事の浅野秀剛さん(第39期)による講演会の要旨、サプライズのアトラクションも含めてご報告いたします。

講演会 「海外日本美術事情」

講師：浅野 秀剛さん



渟城第一小学校、能代一中、能代高校では陸上でインターハイに出場し、大学は立命館大学理工学部に進学しました。理数系でしたが、学生時代から美術の歴史、なかでも浮世絵の勉強をしていました。大学卒業後、就職する気になれず10年ほど今でいうフリーターをしていました。34歳のときに千葉市の公務員になり、千葉市美術館の立ち上げに参加して学芸員になりました。

<日本美術の海外流出>

16世紀の南蛮貿易では漆器が主な輸出品でした(注：英語で漆器をJAPANと呼びます)。漆器は中国が起源で、中国のものはパワーがあり、韓国のは螺鈿で豪華、日本は繊細で華麗な蒔絵が特徴です。いまでもスペインなどでは貴重な容器として使われています。

その後、17世紀から18世紀に有田焼が大量に輸出されました。中国が戦争状態になり、景德鎮からヨーロッパへの輸出がとまったため、代替として有田焼が採用されました。当時の有田焼は、伊万里港から輸出されたため、ヨーロッパではIMARIと呼ばれ、豪華な金襴手の品々は非常に高価な値段で取引されていました。

<浮世絵の輸出>

浮世絵の輸出は、江戸時代はごくわずかででした。1799年にフランクリン号に乗ったアメリカ

のデヴェロー船長が日本から持ち帰った5点の浮世絵版画が、ピーボディ・エセックス博物館に寄贈されています。また、日本でも有名なシーボルトが1823年から29年に収集したものが、現在、ライデン国立民族学博物館に収蔵されています。1856年、ブラックモンが北斎漫画の卓抜性を発見し、幕末になって浮世絵版画の魅力が欧米で認識されるようになりました。

1867年のパリ万博に日本から浮世絵(絵画)が公式出品され、版画も大量に持ち込まれ配られたことで、パリでも一般に認識されるようになっていきました。その後、明治初期に爆発的な人気となって輸出されるようになりました。浮世絵版画は、現在50%がアメリカ、日本に30%、20%がヨーロッパに存在しますが、(当時国内ではそれほど価値を認められていなかった版画が)輸出されていなければ現在これほど多くは残っていなかったと思われます。

<浮世絵の価格>

明治初年の浮世絵の価格は1枚1銭といいますがから現在の200円程度でしたが、1888年には古い錦絵は約3万円、1892年には鈴木春信の錦絵が20万円ほどの価値に急騰しました。

日本の美術品は、コレクターから美術館への寄贈やオークションで欧米の美術館にストックされていきました。同時に根付・緒締、印籠、自在置物、武具といったものも増えていきました。中でも日本の美術品を置いている美術館には、必ず浮世絵が収蔵されています。

<最近の海外作品の調査> (映像で紹介)

2008年 ギリシャ・コルフ島の国立アジア美術館での調査

→新発見の写楽「四代目松本幸四郎の加古川本蔵と松本米三郎の小浪」

2009年に江戸東京博物館で里帰り公開されました。

→歌麿「歌撰恋之部 深く忍恋」

2009年 イスラエルの美術館の調査



→鈴木春信「今様おどり八景 汐汲の秋月」 イスラエル国立美術館

2009年 ポストン美術館

→東洲斎写楽「三代目市川高麗蔵の亀屋忠兵衛と初代中山富三郎の新町のけいせい梅川」

2010年 オスロの国立美術館とオスロ大学のコレクション調査

※注 2011年5月～6月に東京国立博物館で開催された「写楽展」では、確認されていた写楽作品146点のうち142点が公開されました。日本の写楽研究で第一人者の浅野さんはゲスト・キュレーターとして参加されています。

構成／石井鉄美(第50期)

東京同窓会で佐々木校長先生に手渡された「能中」ガラス窓は、会場から能代高校への宅配を受け付けてもらえず、私が再び保管しておりましたが、1月9日に母校に届けて参りました。佐々木校長先生を始め田畑教頭先生、渡辺事務長先生にお会いし、無事お渡しして来ました。窓枠は玄関正面に展示して頂けるとの事で、すでに展示スペースも確保されており、感激して帰って参りました。皆様も帰省の際には是非母校へお立ち寄りください。能代は大雪に見舞われていましたし、秋田道はほとんどが圧雪になる程の大変な大雪でしたが、何とかお約束を果たせたと思っています。

渡辺博栄(第43期)



母校から総会に出席した佐々木正一先生(平成24年度校長)へ能中ガラスが手渡される。

卒業生の心に残る「能中ガラス」



昭和49年度卒業アルバムを表紙ガラス越しに校舎を描いたもの

～～「能中ガラス」の由来について～～

能代高校の前身である能代中学校は昭和19年2月に火災で焼失しました。戦中戦後の諸物資欠乏のなか、ようやく再建校舎ができたのは4年後の昭和23年2月のことでした。苦勞して建てた校舎の大切な資材を守るために、当時、窓ガラスにサンドブラストという技法で「能中」の文字を刻印したということです。

なぜかゴスペルを歌う♪

会長の旗振りのもと、幹事の有志でゴスペルの歌唱を披露することに！黒人霊歌を2曲歌い、わずか3回の練習とは思えぬ上達ぶりに大絶賛(おおむね)。指導の倉橋宇多子先生も「アメイジング・グレース」を歌っていただきました。



2曲の動画は後日 YouTube で公開(東京同窓会ホームページからご覧ください)。当日欠席した人からも So good! の声が寄せられました。

東京同窓会に参加して

第24期 柴田 郁

本校同窓会副会長として最後の参加機会になると思い、同期の友人を誘って久しぶりに上京しました。私が能代二中、湊二小在職中の教え子が幹事をされているとのことで再会できることを何より楽しみにしておりました。

東京同窓会は期待通り会議の進め方も良く、アトラクションも非常にパンチが利いていて素晴らしいものでした。袴田さん(45期)の議長や往年の応援団長ぶり、石井さん(50期)が参加していたゴスペルも若い力が感じられて、非常に新鮮で刺激を受けました。今回参加できて本当によかったと喜んでおります。東京の地でふるさとのことを思う気持ちがどの人からも伝わってきて胸が熱くなりました。

また是非参加させていただきたいのですが、来年のことが約束できない年齢になってしまいました。いまの気持ちをいつまでも持ち続けて、袴田、石井がんばれ!! 遠く能代の地から応援しています。

末筆ながら、会場でごあいさつできなかった諸先輩にお詫び申し上げるとともに皆様のご健康・ご多幸をお祈り申し上げます。



24期生が集まって記念撮影。同期から女性4人の参加がありました。



今回も多くの同窓生が地学・物理の小西(旧姓北川)和子先生との再会を喜びました。



歴代会長が4人集まり、乾杯の音頭を。左から小林肇(第19期)、畠豊彦(第25期)、太田勝治(第29期)、菅原渉(第39期)。敬意をもって敬称略!

3年が経過しての思い…

第67期 滝田 祐作

私が地元紙の北羽新報社に入社してから3年が経ち、その歩みと共に母校の東京同窓会には毎年重要な行事として出席してきました。記者として県内の東京同窓会やふるさと会に出席をして記事を書いています。現在どこの東京同窓会やふるさと会でも問題になっているのが若い世代の会員の獲得です。同窓会では早くからホームページの作成、SNS(フェイスブック、Mixiなど)などに着手し、同窓会内で同好会を作り活発に活動をしていること、会員内で何かあればメールで周知するなどしていることに感銘を受けました。そういった1つ1つの活動の積み重ねが昨年の卒業生の82期生の入会につながっているのかなと思います。

今、世の中ではアベノミクスで景気が上向きになってきたとの明るいニュースを見るようになってきましたが、東京に住んでいるとなかなか秋田の明るいニュースが入ってきません。「平成24年度人口動態統計の概況(概数)によると出生率と自殺率は18年連続、婚姻率は13年連続と全国ワーストが続いている」「能代山本の人口も国立社会保障・人口問題研究所が発表した人口推計では、2010年の国勢調査で9万28人の人口が27年後の2040年には5万744人なるだろうと試算。2人に1人が65歳以上の社会がそう遠くない将来に訪れるだろう」などふるさとが危機に

さらされていると最近のニュースで知り胸が痛くなりました。

危機にさらされているふるさとに地元紙の東京支社として、地元出身者の首都圏での活躍・活動を地元へ伝えたり、首都圏とふるさとのつながるようなパイプ役として働くことで、ふるさとの活性化につながればと思っています。

昨年の能高東京同窓会の記事には、若い世代の新規獲得することができた要因や取り組みなどを紹介し、会員間で考え練習をして会場でも大いに盛り上がったゴスペルの写真を載せ地元へ明るいニュースを届けました。

ぜひ会員の皆様には、地元出身者の方でこういった人や活動があるとの情報、地元活性化のためにこんな事業・イベントがあるとの情報も教えてほしいのですが、私は記者としてまだまだ勉強不足なので、まずは会員の皆様ご自身の活動を教えて頂けると大変うれしいです。地元活性化になると立ち上がられる際には是非ご一報下さい。宜しくお願い致します。Mail:yusaku@hokuu.jp まで



久しぶりに会う同期生たちと歓談。



懇親会では司会のカミさまが会場をなごませます。



恒例となっている初参加者紹介の一場面。最年少を含む同窓生たちが自己紹介。



懇親会を締める校歌斉唱は1番から4番まで。歌詞は配布する資料に載っています。

※総会・講演会・懇親会の写真の一部は東京同窓会のホームページからもご覧になれます。

<http://shoryokenji.web.fc2.com/>

高級国産畳 製造・販売

株式会社 **たたみ無双**

代表取締役 **佐藤 茂** (51期生)

東京都東大和市中央 1-12-3

フリーダイヤル **0120-870-630**

検索⇒ **たたみ無双**

tatamimusou@future.ocn.ne.jp

会 員 だ よ り

磐梯山麓で喜寿祝い

～のしろ55会～

第25期 畠 豊彦

2012年晩夏の9月6日に能代高ほか能北高、能工、能商等の同期生からなる「のしろ55会」が、磐梯山の麓で喜寿祝い会を行ないました。本年は1955年(昭和30年)に卒業した同期生の殆ど(昭和11年生)が77歳となる年なので、能代方面からの参加者も考慮して桧原湖畔の猫魔ホテルを会場としました。

参加者は、男性11名、女性15名(能代・秋田からの参加者7名を含む)で、女性群が男性群を上回ったのは55会が始まって以来はじめてでした。宴会は三浦仙雄の司会、工藤尊久の開会挨拶、田中一男(藤里から直行)の乾杯音頭で始まり、自己紹介のあとは小・中・高校時代の昔の話に花が咲き、うたごえやカラオケは夜遅くまで響きました。

翌朝はすっきりと晴れ、窓からは磐梯山や猫魔岳のきれいな峰が眺望できました。朝露を踏んで裏磐梯最大の湖である桧原湖の湖畔や神秘的な湖沼がある五色沼方面の美しい自然の散策路をウォーキングしました。

女性群の一部は、会津若松市の鶴ヶ城などの観光をし、東山温泉で一泊して別のコースで帰ったのも思い出の一つになったことでしょう。

しかし、この2～3年を振り返ると長い患いや急な病気で亡くなった同期の友人が何人もいたことが思い出され、この会でも哀悼と自愛の言葉が多く交わされました。

会員の北島茂が同年9月27日に胃がんで亡くなりましたが、病床でこの記念写真を見ながら「出席したかった」とつぶやいたことを知らされ、無念とともに重い石が頭に載せられた感に襲われました。今は元気であっても後期高齢者の命の限界はひそかに近づいていること、そして、精一杯生き抜くべきことを喜寿の歳と年にアドバイスされた気がしています。



ホテルの前で磐梯山を背景にした全員の記念写真

樽子山会報告「深川めぐり」

第31期 馬場 富男

5月23日(木)当日は、快晴でした。メンバーがよいことと日頃の心がけでしょう。この春に引き継いだ熊谷幸夫代表幹事による第一回目、快調なスタートです。今後ともあやかりたいと思います。

「深川めぐり」と銘打ちまして実施したのですが、どうなることやらと幹事共々心配をしていました。メンバーの構成やら、人数やら…。ともかく、当日参加メンバーは12名となり盛会の内に出発進行となりました。全行程距離約5Kmで昔の若人(松陵健児)に合う距離であったと思います。

コースは*深川不動尊→*深川富岡八幡宮→*清澄庭園→*深川芭蕉記念館→*芭蕉記念館分館→*深川江戸資料館

最近ではエベレストに登頂するとなんでもない老人もいます。天声人語にもありましたが、「青春とは年齢でなく、心のあり方だと言われる。似た意味で、高齢の人には三つのタイプがあると言われる。まだ若い人、昔若かった人、そして一度も若かったことのない人。」と…。今後とも樽子山会にぜひ参加して下さい。

参加者13名(敬称略・卒業期順・反省会含む)
矢口裕 23期、小山黎子 24期、山縣輝輔 24期、畠豊彦 26期、畠山信孝 26期、石川正順 29期、今立駿 30期、田中勝美 30期、熊谷幸夫 30期、渡邊傑 30期、藤田道義 30期、馬場富男 31期、菅原渉 39期



もっと女性の方も参加を！

第24期 小山 黎子

樽子山会「深川めぐり」参加者の小山です。後日、思い出一杯の写真を送って頂きありがとうございました！お天気にも恵まれて、楽しく、また色々勉強にもなった一日でした。

今回の女性参加者は私一人でしたが、次回は是非もっと多くの女性の方にも参加して頂き、楽しんで頂きたいな～って思っております。女性の方、是非、是非参加してくださいねって呼びかけたいです…が、呼びかけ方が分からないので事務局の皆さん宜しくお願いします。今回は幹事さんはじめ皆さんありがとうございました。



東京同窓会の同好会

東京同窓会には、同窓生の親睦のために以下の同好会があります。これらの会に連絡を取りたい人、新たな同好会の提案がある人はご連絡ください。事務局メールアドレス：shoryo-tokyo-01@live.jp

◇棋聖会

活動内容：囲碁・将棋の同好会です。年に3～4回程度、土日・午後の開催を予定しています。

代表者：石川正順（第29期）

◇能高五日会

活動内容：同窓生の青年部。若手同窓生たちの親睦と交流を目的にした懇親会です。設立は2006年1月5日。自分が若いと思っている人はだれでも青年。入会資格は故郷と母校を愛していること。

代表者：石井喬（第46期）

◇樽子山会

活動内容：樽子山を卒業した世代が各期を越えて参集し懇談します。元気な70歳台の楽しい寄集まり会にしたいと思います。

代表者：熊谷幸夫（第30期）

◇能球会

活動内容：年2～3回、東京近郊のコースでゴルフを楽しみます。昨年12月は小川カントリークラブで開催し、東京同窓会HP掲示板で報告。今回は桜の季節（4月前半？）に開催予定です。

代表者：石井喬（第46期）

◇能高釣クラブ

活動内容：自然を満喫しながら渓流釣を楽しみ、昼はバーベキュー、夕方は温泉で疲れを癒します。

代表者：小河範也（第41期）

◇東京探訪の会

活動内容：年2回（予定）、日常あまり触れることのない「東京」を訪ね、約2時間のコースを散策。2013年4月は「深大寺・神代植物公園」を楽しみました。東京同窓会ブログに報告を掲載。

代表者：吉田真由美（第46期）

◇能高バスケの会

活動内容：能代カップやウインターカップ、日本リーグやbjリーグ観戦、本校バスケット部やOB会との交流などによる情報交換をしています。東京同窓会ホームページに報告を掲載。

代表者：片谷浩之（第49期）

能代郷土料理・居酒屋

酒楽こてらんこ

藤岡洋子(能代北高卒)



〒110-0015
東京都台東区東上野1-19-2 第二鈴木ビル1F
☎ 03-6803-0239

・JR御徒町駅 北口より歩いて5分
・日比谷線 仲御徒町駅3番出口より歩いて3分

◆定休日 土日祝(土曜日は予約のみ営業)

平成25年度(2013年)収支決算報告書

(平成24年8月1日～平成25年7月31日)

収入の部			支出の部		
項目	予算	決算	項目	予算	決算
総会収入	900,000	690,000	総会費	1,320,000	1,279,239
会費収入	642,000	548,000	組織拡張費	30,100	23,945
雑収入	50,100	93,438	一般管理費	242,000	116,662
当期収入合計	1,592,100	1,331,438	当期支出合計	1,592,100	1,419,846
			当期収支	0	-88,408
			前年度繰越金	988,333	988,333
			翌年度繰越金	988,333	899,925

★紙面の都合で簡易版を掲載しました。総会資料、東京同窓会ホームページでは詳細をご覧ください。

平成25年度年会費納入者(敬称略)

(2012年8月1日～2013年7月31日)

【8期】星信勝*【19期】小林肇、大塚哲郎、千葉孝夫*、鈴木良夫*【20期】日沼聡*、吉田裕*、小野喬*、金谷芳郎*【21期】五十嵐資和*、信太吉右工門*、八杉和夫*【23期】矢口裕【24期】山縣輝輔、小山黎子、蓮沼旬*、藤岡寛子、金子勝信*、豊田誠*、丸山範子【25期】畠豊彦、那須秋男、民谷恒二*、工藤尊久*、栗原俊一*、町田次男*【26期】畠山信孝、板倉富弥、宮腰英彌*、八柳昭義、佐々木高博、池内廣之*、【27期】山田邦夫*、檜森寛*、大村真陸郎、石嶋喜直*、齊藤秀夫*、後藤信義、栗原優子*、田中郁三*、川井芳敬*【28期】須田正巳*、堀内盛*、浅野勉*【29期】太田勝治、宮腰興紀、笹木広澄、宮腰瑞夫、清水武久、石川正順*、塚本祝永*、嶋田雄右*、赤塚鉄男、糟谷愛*、中田龍一*、長谷川哲治*、越前谷孝臣*【30期】熊谷幸夫、渡辺傑、岩村光二*、山本正樹*、藤田道義【31期】馬場富男、松森隆*【32期】高谷誠*、吉岡良隆*、野呂田正一*、森喬夫*、芦崎昭紀、奈良勝夫*、松橋厚【33期】金田英成*、清水靖子*【34期】西川廣正、長岡忠光、庄内正*【35期】横田真理子、石山眞、干場革治、川添能夫、金谷満郎、平川徳道、清水正之*、柳谷淳、高松睦夫、佐藤俊民【36期】深井学*、嶋田星子、武田忠克*、大山金士郎【37期】今野廣隆、小野津世子*、若狭秀巳*、坂田静子*【38期】豊嶋誠、佐藤能雅、新堀勝男、袴田忠夫*、金野正道*、福田満男*、能登洋一*、鈴木貞幸、酒田正克*、佐藤春香*【39期】菅原涉、大塚進、泉龍英、直嶋博明、田村敏雄、下坂節男、金野峻明、浅野秀剛、諸沢隆一【40期】熊澤朝子*、小林哲*、高橋博美、智田農、北川雅夫*、小川孔輔*【41期】小河範也、大久保英生、金子裕二、成田忠幸*、原田祝【43期】菊池忠夫、福岡武、高橋敦子、石塚信一*、北林博敏、近藤信雄*、渡辺博崇、幸坂和彦*【44期】庄内俊憲、佐藤典*、佐藤稜*、宮腰正己*【45期】袴田邦夫、三浦洋、大塚雄蔵、小杉山乙矢、高松武史、平野信任、鎌田泰宏、真崎裕【46期】斎藤靖雄、吉田真由美、秋林泰樹、石井喬、平川尚、斎藤昭義、大塚晃【47期】野村一哉、越中谷真喜、大久保昭桂【48期】越後康一*【49期】片谷浩之、松永京子、大塚聡子*、近藤敏仁、田村盛仁【50期】石井鉄美【51期】袴田巨、池内史彦、山谷慎一【53期】梶原禎子、吉田順*【54期】佐藤篤規、遠藤いぶき*【55期】淡路和子、大山顕*、浅野敦志【56期】吉田由美子、高島雪絵【57期】北野美穂子*【62期】大高忠勉*【66期】高橋弘志【67期】滝田祐作、小林祐子【69期】近藤健一、赤川豊幸【73期】柿崎誠、大山聡【78期】今西拓磨、牧野友花【81期】塚本希美【82期】今西望

以上合計 186名

※年会費帯制の適用者2組は二人の名前を掲載しました。*マーク付きの人は総会欠席にもかかわらず会費を納入いただいた方です。

年会費納入のお願い 300人に達したら年会費が値下げに

東京同窓会の年会費納入にご協力いただきまして誠にありがとうございます。昨年度年会費を納入していただいた方は186名で、その御芳名はこのページに掲載いたしました。この年会費は会報誌の作成、総会案内状の送付、出欠回答の回収・整理、ホームページ運営など日頃同窓会を運営する上で大切な財源となっております。現在、東京同窓会の会員数は約1,400名ですが、この内の約200名の年会費によりなんとか運営されているのが実情です(参考:大館鳳鳴高校東京鳳鳴会は昨年475名納入)。そのため近隣の同窓会に比べて能高東京同窓会は年会費が3,000円と少し高い状況にあることから、これを早く2,000円程度に値下げしたいと考えております。ただし現状の納入者数ですぐに値下げをしますと財政的に成り立たなくなり、同窓会の運営に支障が出てしまいます。あと少し幅広い皆さんに年会費納入にご協力いただけましたら誠に幸いです。300人に達したら年会費を2,000円にしたいと考えております。今後とも皆さんのご理解とご協力を宜しく願いいたします。なお、総会には出席しないものの会費だけは毎年きちんと納めていただいている方もたくさんいらっしゃいます。重ねて厚く御礼申し上げますと共に、今年の総会・懇親会にはぜひともご出席いただけましたら大変嬉しく、幹事一同、心よりお待ちしております。 財務委員会より

松陵健児

能代高校東京同窓会 会報 第23号

発行日 平成25年9月1日

発行 能代高校東京同窓会

発行責任者 菅原 涉

編集 会報誌委員会

印刷 有限会社国分工芸

■能代高校東京同窓会事務局

〒103-0007

東京都中央区日本橋浜町3-35-5-504

(株)ダイオージャパン内

電話 03-3660-1957

FAX 03-5847-7056

■年会費振込先

郵便払込口座番号 00150-7-27459

加入者名 能代高校東京同窓会